

茅打バンタ

茅打バンタからの眺めは、沖縄で最も象徴的なパノラマのひとつです。高さ 80 メートルの断崖の端にある展望台は、国頭の西海岸全体を見渡します。内陸の森に覆われた山々と沖合のサンゴ礁に挟まれた長い緩やかな弧は、南方に位置する本部半島まで続いています。西側に広がる何にも遮られない東シナ海の景色に沈む茅打バンタの夕日は絶景です。

「戻る道」

展望台から少し手前に戻ると、左側に山の狭い裂け目を通る道があります。沿岸の道路が建設される前、この道は近くの宜名真村と北にある耕地を結ぶ唯一の経路でした。当時、裂け目は一人がやっと通れるほどの広さだったため、反対方向に向かう 2 人が途中で出会った場合、1 人が後退しなくてはなりませんでした。このことからこの道は「戻る道」として知られるようになりました。これは通行に大変不便だったため、宜名真村は孤立し、貧しさに苦しみました。

1912 年、北にある辺戸小学校に新しい校長が赴任しました。校長は赴任してすぐに生徒の欠席率の高さに困惑し、「戻りの道」について知ると、直ちに地元住民を集めて道を広げ、生徒の通学を容易にしました。1913 年 11 月までには、道は双方向の交通が可能になるほど広げられ、かつて孤立していた集落は互いに行き来しやすくなりました。その後の数十年で、道をさらに広げるためにダイナマイトが使用され、現在の切り通しができました。